



大妻多摩中学校

二〇二二（令和四）年度

入学試験問題（適性型思考力入試）

【読解表現（作文）】

時間 50分

2月1日（火）

【注意事項】

- 1 問題は7ページまであります。
- 2 指示があるまで、この冊子を開いてはいけません。
- 3 ページが抜けていたり、印刷が見えにくい場合には、手をあげて知らせてください。
- 4 答えはすべて、問題の指示に従って解答用紙に記入してください。
- 5 問題冊子の8ページは下書き用として活用してください。

問題は次のページからです。

◎次の文章**A**と**B**は、山下祐介『地域学をはじめよう』（岩波ジュニア新書）の一節である。これらを読んで、あとの問いに答えなさい。なお、設問の都合上、本文の内容を一部省略した箇所があります。

A

東京都心の西、京王線新宿駅から橋本行きに乗り、調布から八王子に向かう本線から分かれて京王相模原線を進むと、三〇分ほどで京王多摩センター駅に到着する。このあたり一帯が「多摩ニュータウン」と呼ばれる、東京を代表する大規模郊外住宅地である。

この多摩センター駅からさらに二駅西に進んだところにある南大沢駅の駅前に、僕が勤める東京都立大学がある（図1・1）。

駅を出ると目の前には大きなスーパーとショッピングモールがあり、それらに隣接して大学のキャンパスが東西に長く連なっている。まわりは住宅団地で埋めつくされている。立ち並ぶマンション。一軒家もしばしば区画ごとに単一のメーカーによる、きわめて人工的な感触の強い街である。いや



図1・1 八王子市由木地区周辺（東京都立大学、南大沢駅周辺）（制作協力：昭文社『街の達人 東京多摩便利情報地図』）。図中の点線は、地域と神社のつながりを表している。

人工的といってももとは山林だから緑は豊かだ。ジブリ映画『平成狸合戦ぽんぽこ』（高畑勲監督、一九九四年）の舞台になった場所の一つで、確かに昨日も狸を見た。

山上の空中楼阁ろうかくのような郊外田園都市。多摩ニュータウンの団地群はそんな感じにつくられている。^①表面的にはきわめて端正で美しい。だがよくいわれるのは、ここには「地域がない」「地域がとぼしい」ということである。平日は先ほどの電車に乗って早朝から街の人口の多くが都心に働きに出る。住民が揃うそろのは夜と休日だけ。ここに暮らしていると、確かに「地域」があるのか疑わしくなる――。

この本をこれから読もうとする皆さんには、こうした郊外住宅地の出身者が多いのではないかと思う。郊外住宅地は首都圏とけんに限らず地方にもある。そしてこれを読んでいるあなたが学生なら、やはり平日の昼間は自分の住む住宅地を離れ、はな別の地域にある学校ですごしてもいるはずだ。一つの地域に昼夜通していないのは、サラリーマンだけではない。

本書は、こうした「自分には地域がない」「地域を知らない」「関わりがない」という人にも読めるものでなくてはならない。そこでここでは郊外住宅地のまっただ中から、話をはじ

めてみたいと思う。

今、郊外の都市空間には「^②地域がない」と表現してみた。しかし本当にここに「地域」はないのだろうか。いや、君たちの中にはこう考える人もいるかもしれないね。「私たちの暮らしは、村や町のような昔ながらの地域共同体的な地域によつて担われていた状態から、経済を媒介とした都市的な市民社会の暮らしに転換てんかんしているんじゃないですか」と。そしてそれは歴史の運命であつて、「そもそも地域はなくなるべきものではないですか」と。これは実際には、大人の中に多い意見なのだけれど。

だが、地域は本当になくてもよいものなのだろうか。この本ではこうした問いに順に答えていこうと思う。そのために、まずは郊外住宅地の暮らしに本当に「地域」は見出せないのか、そこから考えることにしよう。

先に述べたように、多摩ニュータウンは映画『平成狸合戦ぽんぽこ』の舞台になったところ。この映画で描かれているように、ニュータウン開発は多摩丘陵きゅうりゅうの山々をブルドーザーで整地するところからはじまった。

では、この山々は一体どんな山だったのだろうか。

現在は、山の上にある鉄道の駅を団地群がとりまき、またその駅にショッピングモールや公共機関などが張り付いていもいるので、ここを訪れた人は山上こそがこの地の中心だと思ひ込んでしまう。

ところが、この山の上からすうっと坂道をくだって川筋に下がっていくと、そこからは、現在団地がある場所をかつて里山として暮らしてきた村々が見えてくる。

ためにしに大学の北門の前にある坂をおりてみよう。門の真ん前がかつての溜池^{ためいけ}を利用した公園（柳沢の池公園^{やなぎさわ}）になっていて、ここから下にかつては田んぼが広がっていたことがわかる。坂をおりると大栗川^{おおぐり}があり、川沿いの平らな場所が現れる。実はここが本来の人間の暮らしの中心だったところなのである。

図1・1ではもとの集落名を記載^{きざし}して、ランドマーク（目印^{とくちよう}となる地理学上の特徴物）として神社をひろい、各集落と関連づけてみた。この地図と、ニュータウン開発前の地図（図1・2）を比べてみよう。

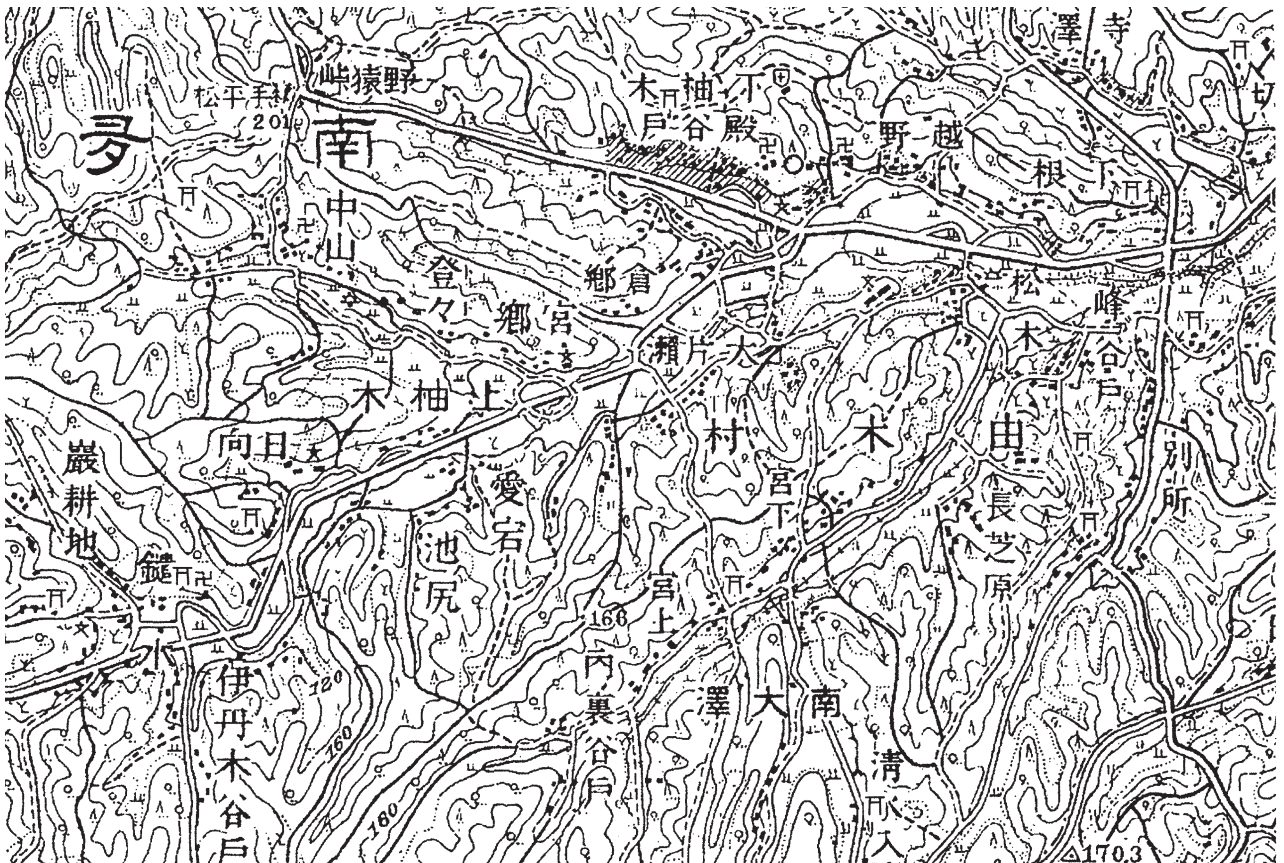


図1・2 八王子市由木地区周辺(1950年代)。国土地理院5万分の1地形図(八王子、1953年測量)部分

どうだろう。現在団地となっている場所は、川筋の村々から一步山の方へとあがってきた場所を選んで開発されたものだということがわかるだろうか。

今、坂をおりて下柚木まで来たが、ここから川をさかのぼれば（地図の西、左側へ）、上柚木、鑑水と続き、^③ここが大栗川の最上流部になる。反対に川をくだれば（地図の東、右側へ）、越野、堀之内という集落が続く。また北側には中山という集落も見える。

このあたり一帯は、一九六四（昭和三九）年に八王子市と合併したかつての由木村であり、村役場は今たどった鑑水から下柚木への道が、野猿街道につながる地点の少し北側にあった（**図1・2**、「**殿谷戸**」の文字の右下の○印）。

多摩ニュータウンのある場所は本来、草木が生い茂る森林や草地であり、そうした旧来の集落の裏山を開発して、この巨大な団地集落は現れた。今は鉄道が山の中を通っているの
で、山の上の団地が表で、山の下
の村々が裏のように見えて
しまうが、もとは逆なのである。昔のフィルムのネガとポジ
のような関係で、かつては集落がなかったところを選んで、
団地は建てられたのだった。

こうした旧来の村々は、今やそのまわりを住宅や小規模開発の団地で埋め尽くされているので、目を凝らさないとともに姿は見えてこない。また、河川は改修されて直線化しているだけでなく、一部の村々はもとの集落のあった場所から離れたところに集団移転もしているので、原形をそのまま保っているとはいいがたい。それでも川筋を歩いてみれば、かつての村のかたちが今もそのまま残っていることがわかるだろう。

明らかに農家であった屋敷群。屋敷そばの畑や、わずかながらだが残る田んぼ。そして本来はそれらを潤すためにつくられた溜池や水路。そのいくつかは現役でもある。また、団地開発にともなう地形の大改造に巻き込まれた村々も、地権者団地としてひとまとまりに移住しているので、住宅団地の中に明らかに農家づくりの家々が立ち並んで、農村的景観を形づくっている場所がある。一つ一〇〇円の野菜や果物を並べる小屋なんかもそこそこにおいてある。

郊外住宅団地は首都圏に限らず、地方都市でもだいたい昭和四〇年代かその直前に建設がはじまっている。八〇年前に

起きた戦争の直後に生まれた人々は、「団塊だんかいの世代」やベビーブーム世代などといわれ、非常にたくさんの方がいる。その人たちがちょうど大人になり、結婚けっこんし、子育てをはじめる前後の時期に新たな住宅が必要となったのである。

それから半世紀、日本の都市は住宅を建て続け、郊外団地をつくり続けた。その間、五〇年もたてば、世代は親から子へ、そして孫へと移っていく。今、日本社会の中堅ちゅうけんを担う団塊ジュニア世代（第二次ベビーブーマー）の多くはこうした郊外住宅地で生まれ育った。僕もまた同じで、育ったのは兵庫県神戸市の須磨すまニュータウン。こうした世代のさらにその子どもたちが皆さんである。最初に、皆さんの多くが郊外住宅地の生まれだろうと述べたのはそういうことからだ。

郊外住宅地は、どこかの村の一部だった場所である。しかもそれは、場合によっては村そのものを破壊はかいしてつくっており、それゆえにどうも「地域がない」、あるいは「地域が見えない」ところらしい。その郊外に今、多くの人が集住している。そのため、場合によっては「地域などいない」という感覚をもつ人が増えてしまったようだ。昭和四〇年代（ちょうど半世紀前）は、日本社会の大きな転換期てんかんきだった。それ以

前とそれ以後でこの国の姿は大きく変わったのである。

地域学は、こうした住宅団地化が進む前の、五〇年前の姿を念頭において探求しつつ、これから先の地域のあり方を考えていくものになる。

B

「地域」を辞書で引くと、こう説明されている。

「地形や行政管轄かんかつなどの観点から、なんらかの意味でひとまとまりのものとして他と区別される土地。」「的・性・別」』（『新明解国語辞典』三省堂）、「区切られた土地。土地の区域。」「の代表」』（『広辞苑』岩波書店）、「土地の区域。区画された、ある範囲はんいの土地」（『精選版 日本国語大辞典』小学館）等。

いずれの説明も、ただ一定の空間のことを指して「地域」という概念がいねんを考えているようだ。まあ、それが地域の一般いっぱん的な捉え方なのだろうし、皆さんもきっとそうなのだと思う。

しかし、漢和辞典で「地」や「域」の字の由来をたずねてみると、異なる意味が加わってくる。先に「域」の方から見ていきたい。

「域」のつくりの「或」。これを分解すると、「戈」「口」「一」となる。「戈^{ほこ}」をもった人々（「口」が、境界（「一」を守っているという意味なんだそうだ（『大漢語林』大修館書店）。「或」を四角く取り囲めば「國」となり、これは「国」と同義である。要するに「域」には、一定の空間にとどまらず、その空間をそこに暮らす人々が守っている、そういう意味がこめられている。

どうだろう。「域」はどうも、単なる空間ではないね。その空間を守っている人々、参加している人、そこにある集団をふくめた言葉のようだ。

では地域の「地」とは何だろう。「地」は、「土」偏^{へん}に「也」。この「也」は蛇^{へび}のことで、土地がうねうねとうねっている様を指すのだという（同右）。

つまり「地域」とは、ある人々（集団）が土地を占有^{せんゆう}し、自分たちのものと主張していることである。一定の土地を守り、暮らしを立てている、そういう人間集団のことになる。

（山下祐介『地域学をはじめよう』

〔岩波ジュニア新書〕より）

問1. 傍線部①「表面的にはきわめて端正で美しい」とありますが、なぜですか。「表面的」という言葉に注意して、四十字以上五十字以内で答えなさい。

問2. 傍線部②「地域がない」とありますが、ここではどういうことを意味していると考えられますか。文章Bの「地域」という言葉の説明を参考にして、四十字以上五十字以内で答えなさい。

《問1、2を解答する上での注意》

- ・ 縦書^{たてが}きで書くこと。
- ・ 書き出しは、一マス空けずに書くこと。
- ・ 段落をかえないこと。
- ・ 句読点が二行目の先頭にきてもそのまま書くこと。

問3. 傍線部③「ここが大栗川の最上流部になる」とありますが、本文の説明からそれはどの辺りを指していますか。そのおよその位置を次の地図上のア～エより選びなさい。



《問4を解答する上での注意》

- ・ 縦書きで書くこと。
- ・ 書き出しと段落の最初は、一マス空けること。
- ・ 段落をかえたときの残りのマス目は字数として数える。
- ・ 句読点や「」（ ）なども原則として一マス使うこと。
- ・ ただし、句読点および「」が行の先頭にきてしまう場合は、前の行の最後のマスに付け加えること。
- ・ 文末の表現は「です・ます」でも「だ・である」でもよいが、統一して用いること。

問4. 文章Aでは、「多摩ニュータウン」を例に挙げ、歴史的・文化的な観点から「地域」の様子について説明しています。この文章を参考にしながら、あなたにとって身近な「地域」を例に挙げ、歴史的・文化的な観点から、その「地域」について、四〇〇字程度で紹介をしてください。あなたが現在住んでいる地域でなくてもかまいません。なお、地名や経路などは、できるだけ具体的に記してください。

